

僕らは今のなかで

併願、単願、専願

今後、進路相談や進路希望調査において「併願」、「単願」、「専願」という用語を多く使用することになると思います。

そこで、今号では「併願」、「単願」、「専願」という用語について解説と確認をさせていただきます。

「併願」

辞書によると併願とは『受験のとき、複数の学校または同一校の複数の学部と同時に志願すること。』とあります。

これを道内の高校受験を想定して解釈するならば、①【公立高校1校と私立高校を1または2校志願する。】、②【私立高校のA日程1校とB日程1校を志願する。】の2ケースが考えられることとなります。

次に「単願」と「専願」ですが…、

辞書によると単願も専願も同意で『受験の際、1校だけに願書を提出すること。』とあります。

しかし、札幌市内では慣例として下記のように「単願」と「専願」を使い分けております。

「単願」

【私立高校を1校だけを志願する。したがって、合格した場合には、その高校へ進学する。】

「専願」

【第1希望とする私立高校1校の他、公立高校1校か異なる日程の私立高校を志願するが、第1希望とする私立高校に合格した場合は必ずその私立高校へ進学する。】

こうした私立高校の「単願」、「専願」受験は、「併願」受験よりも合格の基準が易くなる傾向があります。

例えば、①「併願受験であれば合格基準はDランク以上だが、単願と専願受験の場合はEランク以上とする。」とか、②「併願受験であれば合格基準は入試当日点70%以上だが、単願と専願受験の場合は入試当日点60%以上とする。」などです。

そのため、「併願受験」では、合格が厳しい高校を「単願」、「専願」受験することにより合格することも可能なことがあります。

この他に私立高校では「推薦入試」があります。「推薦入試」は、筆記試験がなく面接と調査書で合否が決まる学校がほとんどで、さらに「単願」か「専願」であることが条件となるのが一般的です。しかし、「単願」、「専願」よりも合格の基準が易しくなるということはほとんどありません。

最後に公立高校を1校だけを受検する（私立高校は受験しない）場合も、広義では単願と言えますが、札幌市内では慣例として「公立のみ」や「公立一本」などと言い、単願とは言っておりません。

「併願」、「単願」、「専願」について記しましたが、理解していただけたでしょうか。

多くの生徒たちの進路指導をするために便宜上、「併願」、「単願」、「専願」という用語を使用し、分類しておりますが、生徒の数だけ「進路」、つまり「生き方」があると思います。そのことを私たち教員は、常に踏まえて進路指導に当たりたいと考えております。

※coffee break

スペースが空きましたので、お時間のある時にチャレンジしてみてください！

問題 次の報告から確実に正しいと言えることには○を、そうでないものには×を答えてください。

報告

公園に子供たちが集まっています。男の子も女の子もいます。よく観察すると、帽子をかぶっていない子供は、みんな女の子です。そして、スニーカーを履いている男の子は一人もいません。

- (1) 男の子はみんな帽子をかぶっている。
- (2) 帽子をかぶっている女の子はいない。
- (3) 帽子をかぶっていて、しかもスニーカーを履いている子供は、一人もいない。

解答は、次号以降で紙面に空きスペースができましたら載せます。ヒントは、下のような表（ひょう）を作って考えることです。

	男の子	女の子
帽子をかぶっている		
スニーカーを履いている		